

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00445)

事務事業名称	一般廃棄物処理管理事務	款 06	項 01	目 03	事業 001	整理番号	452
現担当課名	ごみ減量対策課	係名	管理係	連絡先 電話番号	3723	昨年度 整理番号	462
上位施策No・施策名	10 ごみの減量と資源化の推進				予算事業区分	既定事業	
事業開始	平成12年度	実行計画事業	目標 03	施策 10	計画事業 02		
令和元年度 担当課名	ごみ減量対策課				事業評価区分	一般	

令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	家庭廃棄物及び事業系一般廃棄物 一般廃棄物処理業者	根拠 法令 等	(1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (2) 杉並区廃棄物の処理及び再利用に関する条例
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○廃棄物の分別状態を適正にし、より円滑な廃棄物処理を可能にしていく。 ○一般廃棄物処理基本計画に定めた目標値の達成を目指す。	活動指標	一般廃棄物処理業者許可 (新規・更新) 件数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	○適正な排出処理に向けた基盤づくりを行う。 ○一般廃棄物処理業者への助言、指導を行う。 ○「杉並区一般廃棄物処理基本・実施計画」や「ごみ収集作業計画」を策定する。 ○清掃リサイクル事業の基礎データを収集する。	指標名 (1)	収集車両台数 (両所の1日平均)
		指標説明	
		成果指標	事業系一般廃棄物搬入量 (持込ごみ量)
		指標名 (1)	指定処理施設 (清掃工場等) への事業系一般廃棄物総搬入量 (速報値)
		指標説明	
		指標名 (2)	一般廃棄物搬入量
		指標説明	指定処理施設 (清掃工場等) への廃棄物総搬入量 (速報値)

指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度 計画	令和元年度 対計画比 (%)	令和元年度 予算執行率 (%)	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績				
活動指標 (1)	1 件	148	118	106	150	144	116	96.0	72.3	
活動指標 (2)	2 台	113	79	79	79	76	76	96.2		
成果指標 (1)	3 t	25,076	25,407	26,162	25,381	26,296	25,465	103.6		
成果指標 (2)	4 t	121,779	121,064	122,917	120,972	124,045	121,372	102.5		
事業費	5 千円	1,735	2,684	2,067	12,857	9,297	3,883	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	○10%以上事業費増の 主な理由は、災害廃棄物 処理計画策定委託と 家庭ごみ排出状況調査 委託実施によるため です。 ○予算執行率90%未満 の主な理由は、災害廃 棄物処理計画策定委託 と家庭ごみ排出状況調 査委託の落札差金残に よるためです。		
(内) 委託費	7 千円	93	195	95	11,423	7,962	1,867			
職員数	8 人	2.16	1.90	2.83	2.75	2.85	2.15			
上記以外の職員	9 人	0.25	0.20	0.20	0.10	0.10	0.10			
人件費	10 千円	18,557	16,323	23,846	23,172	24,846	18,744			
上記以外の職員	11 千円	736	589	618	309	308	308			
総事業費 (5+10+11)	12 千円	21,028	19,596	26,531	36,338	34,451	22,935			
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	142,081	166,068	250,292	242,253	239,243	197,716			
財源	受益者負担分	14 千円	1,481	1,201	1,075	1,516	1,450	1,176		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	1,481	1,201	1,075	1,516	1,450	1,176		
	差引：一般財源 (12-18)	19 千円	19,547	18,395	25,456	34,822	33,001	21,759		
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	7.0	6.1	4.1	4.2	4.2	5.1			

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 452

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	災害廃棄物処理計画策定			4,807
	家庭ごみ排出状況調査委託			2,916
	廃棄物情報管理システム維持管理			753
	全国都市清掃負担会議負担金等の支出			388
	その他 (複合機保守点検委託ほか)			433
事業実績	<p>災害廃棄物処理計画の策定に着手するとともに、一般廃棄物処理基本計画改定に向けた参考とするため、家庭ごみ排出状況調査を実施しました。</p> <p>一般廃棄物処理業者の事務所や事業現場への立入検査を行い、法令等で定めた基準に従って適正に廃棄物を処理しているかの確認や助言、指導を実施しました。また、一般廃棄物処理業の許可事務において、行政処分1件、行政指導1件を実施しました。</p>			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>平成12年度から清掃事業が都から区へ移管されました。一般廃棄物処理業及び浄化槽清掃業の許可事務は、平成17年度までは区への円滑移行を図るため、経過的に東京二十三区清掃協議会で事務を行い、平成18年度から平成24年度まで区が行いました。平成25年度からは東京二十三区清掃協議会による共同処理となりました。</p> <p>平成30年7月に杉並区一般廃棄物処理基本計画 (平成30年度～平成33年度) を改定しました。</p> <p>令和元年度に災害廃棄物処理計画の策定に着手しました。</p>
事業の今後 (3～5年) の予測と方向性	<p>近年、人口増や活発な経済活動により、ごみ収集量の総量は増加傾向と見込んでいましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当面、家庭から排出されるごみ量が増加する一方で、事業系ごみは減少することが予想されます。</p> <p>次回の一般廃棄物処理基本計画の改定に向けて、更なるごみの減量を推進していくとともに、ここ数年の状況を鑑み、計画指標の資源回収率については妥当性も含めて見直しを検討していきます。</p> <p>関係機関と連携して災害廃棄物処理計画の内容の充実を図るとともに、当計画に基づく行動マニュアルについても、訓練等を通して実効性を高めていきます。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>事業系一般廃棄物搬入量 (持込ごみ量)、一般廃棄物搬入量ともここ数年微増傾向にあります。一般廃棄物処理基本計画で掲げる計画指標 (区民一人1日当たりのごみ排出量・資源回収率) を達成するために、ごみ減量と資源化の必要性を区民及び事業者によく周知し、行動につなげていく必要があります。</p>
評価と課題	<p>平成30年度に改定した杉並区一般廃棄物処理基本計画 (平成30年7月策定) では計画指標 (区民一人1日当たりのごみ排出量) を上方修正しましたが、人口増や人口流入に伴う分別への協力度等の影響により減量度合いが停滞化する傾向にあります。そのため、ごみの発生抑制など更なるごみの減量に向けた取組を加速させる必要があります。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>杉並区一般廃棄物処理基本計画 (平成30年7月策定) で掲げる、ごみの減量等の計画指標の確実な達成を目指して、事業者も含めて広くごみ減量の取組を推進していきます。</p> <p>災害廃棄物処理計画については、令和2年度中の策定を踏まえ、有事に備えて関係機関と連携基盤を構築するとともに実用性の面で内容の充実を図っていきます。</p> <p>一般廃棄物処理業等許可事務は東京二十三区清掃協議会による23区共同処理となっていますが、区としては、一般廃棄物処理業者への立入検査や行政指導等を徹底することにより、一般廃棄物処理業者による事業系廃棄物処理の適正化を図っていきます。</p> <p>次回の杉並区一般廃棄物処理基本計画の改定に向けては、これまでの「ごみを減らす」取組から一歩進めて、リデュース (発生抑制) に焦点を当てた「ゼロ・ウェイストすぎなみ」の検討において、区民の自発的な環境配慮行動につなげていける有効策を探っていきます。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 453

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	「ごみ・資源の収集カレンダー」の発行	420,000	部	11,236
清掃情報紙「ごみパックン」「ごみパックン中学生版」の発行	87,200	部	2,629	
集団回収団体報奨金の支払	494	団体	36,154	
その他（集団回収支援消耗品の購入ほか）			29,544	

事業実績

台風時のごみ出しの混乱を防ぐため、全戸配布している「ごみ・資源の収集カレンダー」に、新たに「荒天時のごみ・資源の収集について」のお知らせを追記するなど、区民への周知を図りました。また、食品ロス削減のための取組として清掃情報紙「ごみパックン」に、食材を最後まで無駄なく食べきるレシピを掲載した結果、レシピに関する問い合わせが増えるなど、区民の食品ロスの削減に対する関心を高めることができました。家庭での未利用食品を持ち寄る「フードドライブ」の常設受付窓口を、地域区民センターにも設置（累計10か所）した結果、受付個数が増加しました。

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>清掃情報紙「ごみパックン」や全戸配布している「ごみ・資源の収集カレンダー」等を活用し、ごみの減量や資源化の推進を周知しています。令和元年度に「フードドライブ」を拡充するため常設受付窓口を地域区民センターにも設置しました（累計10か所）。また、事業系食品ロスの削減に取り組む飲食店等を「食べのこし〇（ゼロ）応援店」として登録し、事業者名や取組内容を区ホームページ等に掲載することで、食べ残し等の削減に向けた意識啓発を図っています。</p> <p>「ごみパックン」や「ごみ・資源の収集カレンダー」等の啓発物は区民から好評を得ております。また、「フードドライブ」は、常設受付窓口を地域区民センターにも設置したことで、利便性が高まったとの意見をいただいております。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>「ごみ・資源の収集カレンダー」は、区民からは好評ですが、作成・配布のコストが年々増加しており、内容だけではなく、配布方法についても、より効率的な方法を検討していきます。</p> <p>食品ロスの削減は、家庭系では「フードドライブ」を区民の身近な社会貢献とするとともに、福祉部門との密接な連携を図っていきます。事業系では「食べのこし〇（ゼロ）応援店」を中心としたフードシェアリング事業を消費者と事業者の協力を得ながら精力的な事業展開を行っていきます。</p> <p>集団回収は、回収量が年々減少していることに加え、古紙等の価格が下落していることから、撤退する回収業者が現れ始めました。これらを踏まえ、今後の集団回収のあり方について検討をしていきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>区収集ごみ量は、人口増を一つの要因として前年度比が増加傾向にあります。</p> <p>一方、資源回収率は、新聞と雑誌のデジタル化による発行部数の減、ペットボトルへの転換によるびん、缶の生産が減少しているという社会環境等の変化に伴い、年々減少しています。また、家庭ごみ排出状況調査の結果から、可燃・不燃ごみの中に資源の混入割合が依然として高いことがわかったため、ごみの発生抑制と分別徹底の取組を強化することで、ごみの減量と資源回収率の向上を目指します。</p>
評価と課題	<p>家庭ごみ排出状況調査の結果から、可燃・不燃ごみの中には、依然として資源の混入割合が高いことがわかりました。区民の適正分別がごみ減量と資源の有効活用につながるため、様々な媒体を通じた啓発活動により区民の意識を高め、分別徹底の取組を強化します。また、更なるごみの減量を実現していくためには、食品ロスの削減に重点的に取り組む必要があるため、「フードドライブ」や「食べのこし〇（ゼロ）応援店」事業を精力的に拡充します。</p> <p>集団回収は、区と地域の団体、回収業者の協働のもと、ごみ減量やリサイクルを推進する取組で、回収団体数は増加しています。一方、古紙等の価格の下落により、撤退する回収業者が現れ始めていくことから、集団回収を継続していくための取組を今後検討していきます。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>「ごみ・資源の収集カレンダー」は、周知媒体としては概ね好評を得ていますが、多額の費用をかけて毎年作成し、全戸配布することの必要性が問われています。他区や区民の利用状況を調査し、掲載内容の見直しや全戸配布を止めた場合の課題を整理した上で今後の方向性を定めていきます。</p> <p>家庭用生ごみ処理機購入費補助金は、予算執行率が低い状況が続いています。令和3年度は補助制度の終期であることから、駆け込み需要も予想されますが、これを考慮しても現予算額に達しない可能性があるため、補助金額の減額を検討します。</p> <p>集団回収は、区民のリサイクルに対する意識を高め、良質な資源を回収できる取組ですが、近年、回収量は減少しており、古紙等の価格も下落していることから、撤退する回収業者が現れ始めたため、集団回収を継続していくための取組を検討していく必要があります。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00447)

事務事業名称	ごみ・し尿の収集・運搬	款 06	項 01	目 03	事業 003	整理番号	454
現担当課名	ごみ減量対策課	係名	事業計画係	連絡先 電話番号	3725	昨年度 整理番号	464
上位施策No・施策名	10 ごみの減量と資源化の推進			予算事業区分	既定事業		
事業開始	平成12年度	実行計画事業	目標 03	施策 10	計画事業 02		
令和元年度 担当課名	ごみ減量対策課			事業評価区分	一般		

令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	<ul style="list-style-type: none"> ○区内一般家庭 ○事業者 (排出日量50kg未満) 	根拠法令等	(1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (2) 杉並区廃棄物の処理及び再利用に関する条例
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	<ul style="list-style-type: none"> ○集積所等に分別・排出されたごみを、適正かつ効率的に収集・運搬する。 ○区民が利用しやすいよう、収集サービスの向上を図る。 ○収集した粗大ごみ・不燃ごみを中継車に積み替えて運搬車両台数を減らし、運搬コストを削減する。 	活動指標	指標名 (1) ごみ (可燃、不燃、粗大) の収集量 指標説明 指標名 (2) 粗大ごみの収集点数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	<ul style="list-style-type: none"> ○区民等が分別し排出した可燃ごみは杉並清掃工場等へ、不燃ごみは中継所に搬入する。 ○粗大ごみは、受付、収集・運搬を委託により実施する。 ○中継所に搬入された不燃ごみ・粗大ごみは、金属やその他ごみ等に選別した後に中継車に積み替え、適正処理施設へ搬出する。 	成果指標	指標名 (1) 1t 当たりのごみ・し尿収集運搬コスト 指標説明 指標名 (2) 指標説明

指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和 2年度 計画	令和元年度 対計画比 (%)	令和元年度 予算執行率 (%)	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績				
活動指標 (1)	1 t	96,703	95,657	96,756	95,591	97,749	95,907	102.3	94.4	
活動指標 (2)	2 点	502,768	500,000	494,811	500,000	498,333	500,000	99.7		
成果指標 (1)	3 円	14,566	17,367	15,124	17,138	15,706	17,890	91.6		
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	1,408,553	1,592,269	1,463,349	1,636,405	1,545,181	1,711,998	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0			
(内) 委託費	7 千円	1,403,963	1,534,753	1,417,411	1,584,286	1,501,326	1,673,713			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	147.33	141.80	167.17	148.46	158.27	133.46		
	上記以外の職員	9 人	1.20	0.90	0.70	0.30	0.30	0.00		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	1,234,864	1,184,900	1,375,122	1,205,016	1,325,528	1,114,974		
	上記以外の職員	11 千円	3,533	2,650	2,162	927	924	0		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	2,646,950	2,779,819	2,840,633	2,842,348	2,871,633	2,826,972			
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	27,372	29,060	29,359	29,734	29,378	29,476			
財源	受益者負担分	14 千円	350,558	474,066	430,154	424,994	403,656	428,185		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	350,558	474,066	430,154	424,994	403,656	428,185		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	2,296,392	2,305,753	2,410,479	2,417,354	2,467,977	2,398,787			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	13.2	17.1	15.1	15.0	14.1	15.1			

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 454

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	収集・運搬車両借上 (可燃・不燃)			
	粗大ごみの収集・運搬委託			323,998
	粗大ごみの中継車両借上	2,375	台	103,764
	粗大ごみ・不燃ごみ中継業務委託			133,566
	その他 (賃借料・委託料・消耗品購入ほか)			147,799

事業実績

ごみ収集は、主にごみを搬入している杉並清掃工場において、大きなトラブルがなかったため、安定的な作業を行うことができました。また、年末年始期間に収集期間が空いてしまう地域では、年始最初の日曜日に収集を行うなどサービス確保に努めました。
 小型ダンプ車で収集している粗大ごみを粗大ごみ中継所で中型プレス車に積み替えて運搬することにより、車両台数を減らし、輸送コストの削減と環境への負荷を軽減しています。

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>可燃ごみ量 平成12年度 108,401 t ⇒ 令和元年度 91,258 t 対平成12年度比 約16%減 不燃ごみ量 平成12年度 25,288 t ⇒ 令和元年度 2,752 t 対平成12年度比 約89%減 粗大ごみ量 平成12年度 4,919 t ⇒ 令和元年度 3,739 t 対平成12年度比 約24%減 総 計 平成12年度 138,608 t ⇒ 令和元年度 97,749 t 対平成12年度比 約30%減</p> <p>依然として、ごみの収集漏れ等の問い合わせはありますが、悪天候の中での収集作業に対しては、感謝の声が寄せられています。集積所の管理は、特定の区民への負担が大きく、ごみ排出のマナー等トラブルも発生しているため、戸別収集を要望する声が寄せられています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>可燃ごみ量は、平成29年度から増加が続いており、人口増がその原因の一つと考えられます。今後も区の人口増に伴うごみ量増が予想されますが、ごみの減量を目指し、適正な分別・排出の啓発を継続し、それに加え、ごみを発生させないリデュースの取組を強化します。</p> <p>また、集積所は、近隣関係を起因とした分散要望や狭小路地地区へのきめ細かなサービスを提供するため、分散化が進み、年々集積所の数が増えています。増え続ける集積所に対応するため、適正な収集・運搬ルートを設定するなど、より効率的な収集・運搬体制を構築します。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>ごみ (可燃、不燃、資源) の収集量は、特に可燃ごみ量が平成29年度から増加し続けており、目標を上回る実績が続いています。成果目標の達成に向けた今後の事業展開において、ごみ減量に向けた全ての年代における意識の向上と発生抑制などの行動変容に向けた取組が必要です。</p>
評価と課題	<p>可燃ごみ量は、平成29年度から増加していますが、適宜収集・運搬ルートを見直すなど効率化に努めた結果、車両台数を増やすことなく収集・運搬を実施しました。引き続き、効率的な収集・運搬体制を念頭に、実績により推計した可燃ごみ量を基に、車両台数を見直ししていきます。</p> <p>また、家庭ごみ排出状況調査の結果から、可燃・不燃ごみの中に資源の混入割合が依然として高いことが判明したため、様々な媒体を通じた啓発活動により区民の意識を深め、更なる分別徹底の取組を強化し、ごみ減量につなげていきます。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>可燃ごみ量は、平成29年度から増加していますが、適宜収集・運搬ルートを見直すなど効率化に努めた結果、可燃ごみを収集・運搬する車両台数の増加を抑えています。収集運搬に関わる人件費は増加していくが見込まれますが、引き続き、効率的な収集・運搬体制に努め、また、実績により推計した可燃ごみ量を基に、車両台数を見直すことによって、収集・運搬に関わる経費を抑制していきます。</p> <p>プラスチック製容器包装を資源化する過程で発生する残渣について、可燃ごみとして杉並清掃工場に搬入するための車両が必要となる見込みのため新たな経費が発生します。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 455

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	古紙・びん・缶の回収業務委託			
	ペットボトルの回収業務委託			381,450
	プラスチック製容器包装回収業務委託			579,998
	資源化中間処理委託			595,340
	その他（委託料・消耗品購入ほか）			24,921

事業実績

古紙、びん、缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装を回収し、資源化中間処理施設へ搬入します。当該施設で選別・圧縮等を行った後、再商品化工場へ搬入して資源化を図っています。また、資源の持ち去り対策として、古紙、びん、缶の早朝回収と持ち去りパトロールを実施しています。

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	<p>びん、缶、古紙、ペットボトル、プラスチック製容器包装は、開始時期は異なりますが、集積所回収を実施しています。また、資源の持ち去り対策として、古紙、びん、缶の早朝回収を実施しています。しかし、資源回収量は、年々微減しており、特に新聞と雑誌のデジタル化によって、ペーパーレスが進んでいる古紙は、回収量が大きく減っています。また、中国等諸外国の市場閉鎖の影響により、各資源の売却単価の下落傾向が大きくなっています。</p> <p>一方、依然として、集積所における回収漏れや資源持ち去りの目撃情報等の問い合わせが寄せられています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>近年、新聞と雑誌のデジタル化によって発行部数が減少していることに伴い、古紙の回収量が減少しています。また、ペットボトルへの転換によってびん、缶の生産量も減少しているため、回収量が減少しています。いずれも今後、回収量の減少傾向は継続すると予測されます。</p> <p>家庭ごみ排出状況調査を実施した結果、可燃・不燃ごみの中に資源の混入割合が依然として高いことがわかりました。区民の適正分別がごみ減量と資源の有効活用につながることから、様々な媒体を通じた啓発活動により区民の意識を深め、更なる分別徹底の取組を強化していくことで、資源回収量を増やしていきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>資源回収率は、新聞と雑誌のデジタル化による発行部数の減、ペットボトルへの転換によるびん、缶の生産が減少しているという社会環境等の変化に伴い、年々減少しています。一方、家庭ごみ排出状況調査の結果から、可燃・不燃ごみの中に資源の混入割合が依然として高いことがわかったため、ごみの発生抑制と分別徹底の取組を強化することで、ごみの減量と資源回収率の向上を目指します。</p> <p>区民一人1日当たりのごみ排出量は、人口増等により、特に可燃ごみ量が増加傾向にあるため、実績の減少割合が停滞しており、令和元年度は平成30年度と同じ実績でした。成果目標の達成に向けた今後の事業展開において、全ての年代における意識の向上と発生抑制などの行動変容に向けた取組が必要です。</p>
評価と課題	<p>新聞と雑誌のデジタル化による発行部数の減、びん、缶の生産量の減により、回収量は減少しており、いずれも今後、回収量の減少傾向は継続すると予測されます。一方、家庭ごみ排出状況調査の結果から、可燃・不燃ごみの中には、依然として、資源の混入割合が高いことが判明したため、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の重要性を様々な媒体を通じた啓発活動により、区民の意識を深め、更なる分別徹底の取組を強化し、資源回収量の増につなげていきます。</p> <p>また、ごみの減量、資源の有効活用を推進するため、引き続き新たな資源分別回収品目の調査・検討を行います。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	拡充
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>中国等諸外国の市場閉鎖の影響により、各資源の売却単価が下落していることなどを理由に、集団回収から撤退する回収業者が現れ始めました。他に集団回収を引き受ける回収業者がない場合、集団回収から行政回収へ切り替わるため、経費増につながる可能性があります。</p> <p>可燃・不燃ごみの中には、依然として、資源の混入割合が高いことが判明したため、「ごみ・資源の収集カレンダー」や区ホームページ、スマートフォンアプリ「なみすけのごみ出し達人（マスター）」などの周知媒体によって、適正な分別・排出の啓発を行い、良質な資源の確保に努めます。</p> <p>資源持ち去り対策については撲滅を目指し、今後も早朝回収やパトロールを継続実施し、粘り強く対応していきます。</p> <p>また、ごみの減量、資源の有効活用を推進するため、引き続き新たな資源分別回収品目の調査・検討を行います。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00450)

事務事業名称	ごみ・資源の排出の適正管理	款 06	項 01	目 03	事業 005	整理番号	456
現担当課名	杉並清掃事務所	係名	管理係	連絡先 電話番号	3392-7281	昨年度 整理番号	466
上位施策No・施策名	10 ごみの減量と資源化の推進			予算事業区分	既定事業		
事業開始	平成12年度	実行計画事業	目標 03	施策 10	計画事業 03	主要事業 (区政経営報告書掲載事業)	
令和元年度 担当課名	杉並清掃事務所			事業評価区分	一般		

令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	区民及び区内事業者並びに区内建築物所有者及び管理者	根拠 法令 等	(1) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (2) 杉並区廃棄物の処理及び再利用に関する条例
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	○ごみの分別の徹底を働きかけ、資源化を促進するとともにカラス等による集積所の被害を防止するために区民等が取り組みやすく、より低コストで効果的な方で、集積所の衛生状態やまちの美観を保持する。 ○区の収集を利用する事業主に対し、適正なごみ処理券の貼付を働きかけることで、負担の公平性を確保する。	活動指標 指標名 (1)	直接又は文書による排出指導件数
		指標説明	
		指標名 (2)	折り畳み式防鳥ボックスの配布数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	○事業活動に伴って出たごみ・資源を区の収集に出す事業者に対し、適正な事業系有料ごみ処理券を貼付するよう調査・指導する。 ○ごみ排出の適正化指導、環境学習の推進、集積所のカラス等による被害の防止対策、大規模建築物の所有者への排出指導などを行う。	指標説明	
		成果指標 指標名 (1)	カラス被害のある集積所割合
		指標説明	カラス被害のある集積所数÷全集積所数
		指標名 (2)	
		指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和 2年度 計画	令和元年度 対計画比 (%)	令和元年度 予算執行率 (%)	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績				
活動指標 (1)	1 件	1,265	1,300	1,350	1,300	1,116	1,300	85.8	94.4	
活動指標 (2)	2 個	1,245	1,200	1,240	1,200	1,697	1,200	141.4		
成果指標 (1)	3 %	1.8	0	1.8	0	1.7	0	0.0		
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	81,320	89,637	82,346	74,510	70,347	78,793	特記事項 令和元年度の事業費の減少は、効率化を図るため、事業を継続しつつ、啓発物の作成など個別の経費について見直しを行ったためです。		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0			
(内) 委託費	7 千円	20,890	31,412	27,676	28,771	26,518	30,220			
職員数	8 人	42.74	38.50	40.31	42.00	42.32	46.30			
	9 人	0.90	1.40	1.10	1.00	1.10	0.60			
人件費	10 千円	367,179	330,754	339,652	347,904	360,506	395,203			
	11 千円	2,650	4,122	3,398	3,089	3,388	1,848			
総事業費 (5+10+11)	12 千円	451,149	424,513	425,396	425,503	434,241	475,844			
単位当たりコスト (12-6)÷1)	13 円	356,640	326,548	315,108	327,310	389,105	366,034			
財源	受益者負担分	14 千円	37,032	37,786	34,264	58,397	57,026	58,567		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	168	310	199	262	177	246		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	37,200	38,096	34,463	58,659	57,203	58,813		
	差引：一般財源 (12-18)	19 千円	413,949	386,417	390,933	366,844	377,038	417,031		
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	8.2	8.9	8.1	13.7	13.1	12.3			

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 456

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	有料ごみ処理券印刷実績		1,931,500	枚
	動物死体処理委託	552	頭	1,683
	カラスネット(1,045枚)、折り畳み式ボックス(1,697基)の配布			27,733
	ごみ処理券徴収委託	301	店	18,092
	その他 (大規模建築物指導、ふれあい指導用消耗品ほか)			12,279
事業実績	<p>カラスネット・折り畳み式防鳥ボックスを配布し、ごみ散乱被害を防止するとともに、集積所の環境美化に寄与しました。また、小学校等での環境学習の実施や、7か国語対応のスマートフォン用アプリ「なみすけのごみ出し達人」、多言語に対応した排出指導ステッカー等の取組を通じて、外国人も含めた排出方法の理解の促進を図りました。</p> <p>大規模建築物への立入検査や有料ごみ処理券未貼付事業者への排出指導を随時実施し、ごみ・資源の適正な排出について区民等へ啓発を行いました。</p>			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	<p>近年は、生活形態の多様化や相隣関係から、集積所の分散化が年々進む傾向にあります。カラス対策は、事業開始当初は夜間収集等を実施しましたが、近年は排出マナーの向上、カラスネットや折り畳み式防鳥ボックスの配布などの対策を推進したことにより被害は減少しました。</p> <p>このほか、イラストを活用した集積所看板への交換、「なみすけのごみ出し達人 (マスター)」アプリの7か国語対応など外国人にも分かりやすい啓発を実施しています。</p> <p>戸別収集への要望やルールを守らない人への指導を求める意見が依然として多く寄せられています。一方、単身高齢者等を対象とした「ふれあい収集」は、安否確認など福祉的な側面からも評価されています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>環境への関心の高まりや単身世帯・外国人住民の増加から、ごみ・資源の分け方・出し方やカラス被害に対する相談が増えることが予想されます。また、高齢者世帯の増加からふれあい収集へのニーズが高まります。</p> <p>今後も生活形態の多様化によるごみ・資源集積所の細分化が進むことが予想されるため、収集作業の更なる効率化が求められます。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>カラスネット・折り畳み式防鳥ボックスを要望に応じて必要箇所 (1,045枚、1,697基) に配布してごみ散乱被害を防止したことで、カラス被害が減少しました。また、ごみ・資源の適正な分別の周知を徹底するため、大規模建築物への立入検査や有料シール未貼付事業者への排出指導を計画に基づいて実施し、ごみ処理券の貼付を働きかけることで負担の公平性を確保しました。</p>
評価と課題	<p>ごみ・資源の普及啓発事業を保育園や小学校、町会などで実施し、ごみ減量への理解と協力を促しました。また、未分別のごみの調査や事業系ごみの有料ごみ処理券の未貼付への指導、不法投棄防止のための取組を実施するとともに、希望する集積所へカラスネット・折り畳み式防鳥ボックスを配布することによりカラス被害は減少し、集積所の衛生状態やまちの美観の保持に寄与しました。今後も取組の強化を図り、引き続きまちの美観の保持に努めていきます。</p> <p>単身高齢者等を対象にした「ふれあい収集」については、ごみが出ていない場合に声かけを行うなど、安否確認も行っており、今後も福祉分野と連携した区民サービスの向上のため、継続して実施してまいります。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>ごみの分別と資源化を周知徹底するため、未分別排出物が出されている集積所に対する調査を実施し、必要に応じて区民や事業者へのごみ・資源の排出指導を継続します。また、他区市町村からの転入者や外国人住民及び民泊利用者などへアプリやごみ出しカレンダー等を活用し、ごみの排出方法の周知を行います。</p> <p>事業系ごみの有料処理券の貼付率の向上を図るため、体制の整備と指導の強化を図ってまいります。「ふれあい収集」時には、ごみが出ていない場合に声かけをするなどして、対象者の安否確認を積極的に行ってまいります。特に夏場の熱中症対策の一環として、安否確認の強化を行うなど福祉分野と連携した区民サービスの向上に努めてまいります。</p> <p>在宅医療廃棄物 (使用済み注射針) 回収事業補助金は、令和元年度の回収経費が平成27年度と比較して約30%増加しているため、補助金額は増額となる見込みです。</p>	

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00453)

事務事業名称	清掃車の運行及び維持管理	款 06	項 01	目 04	事業 001	整理番号	459
現担当課名	杉並清掃事務所	係名	管理係	連絡先 電話番号	3392-7281	昨年度 整理番号	469
上位施策No・施策名	10 ごみの減量と資源化の推進			予算事業区分	既定事業		
事業開始	平成12年度						
令和元年度 担当課名	杉並清掃事務所			事業評価区分	施設維持管理		

令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	区所有清掃車両（ごみ収集小型プレス車、軽ダンプ車、連絡車）56台	根拠 法令 等	(1) (2)	杉並区廃棄物の処理及び再利用に関する条例 道路運送車両法
事業の目的・目標（対象をどのような状態にしたいのか）	○加害事故「0」の実現 前年件数の半減を目標とし加害事故を根絶させる。 ○作業計画に基づいた直営清掃車両の搬入回数 計画数内の搬入を目標に効率的な運行を目指す。	活動指標	指標名 (1)	交通安全講習会等の開催回数
		指標説明	指標名 (2)	年間延直営清掃車走行距離数
活動内容（事務事業の内容、やり方、手段）	○車両を安全・適切に運行するための整備を行う。 ○安全運転、安全作業への意識を高める。 ○各種の講習会を実施し、安全運転技術のスキルアップを図る。	指標説明	成果指標	小型プレス車及び軽ダンプ車の走行距離数
			指標名 (1)	
			指標説明	
			指標名 (2)	
			指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度 計画	令和元年度 対計画比 (%)	令和元年度 予算執行率 (%)	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績				
活動指標 (1)	1 回	24	24	22	24	16	18	66.7	76.8	
活動指標 (2)	2 km	520,171	580,000	577,244	600,000	603,149	600,000	100.5		
成果指標 (1)	3									
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	25,402	28,166	24,513	28,017	21,514	22,435	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	保有車両の減少により事業費が減少しています。 令和元年度は、事故・車両故障が少なかったこと、新車の導入に伴う補償による点検整備費の減少などのため、車両整備費が主に執行残となりました。 また、活動指標のうち、「年間延べ直営清掃車走行距離数」については、前年度までの小型プレス車に加え、軽小型ダンプ車の走行距離を加えた数値へ平成29年度実績から見直しをしました。		
(内) 委託費	7 千円	197	3,219	3,185	148	114	155			
職員数	8 人	26.66	23.00	26.11	24.00	26.36	22.00			
	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00			
人件費	10 千円	224,873	197,593	220,003	202,224	229,806	187,576			
	11 千円	0	0	0	0	0	0			
総事業費 (5+10+11)	12 千円	250,275	225,759	244,516	230,241	251,320	210,011			
単位当たりコスト (12-6)÷1)	13 円	10,428,125	9,406,625	11,114,364	9,593,375	15,707,500	11,667,278			
財源	受益者負担分	14 千円	5,213	2,251	3,060	117	483	900		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	5,213	2,251	3,060	117	483	900		
	差引：一般財源 (12-18)	19 千円	245,062	223,508	241,456	230,124	250,837	209,111		
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	2.1	1.0	1.3	0.1	0.2	0.4			

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (2)

令和元年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 459

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	自動車用燃料の購入		56	台
	車両点検整備	56	台	5,964
	維持管理経費の支出 (車両消耗品、保険料・公課費等)	56	台	1,133
	その他 ()			
事業実績	車両点検整備等の実施 ①3か月点検30台 ②6か月点検55台 ③12か月点検20台 ④車検事前点検20台 ⑤架装点検 (庁有車点検含む) 169台 ⑥調整・修理等150台 各種研修・講習会の実施 ①交通安全講習会2回 ②安全運転特別講習会1回 ③運転実技講習11回 ④整備研修2回			

令和元年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情等)	
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	
評価と課題	<p>令和元年度は事故・車両故障は減少していますが、一方で損害賠償を伴う加害事故が2件発生している事から、各種研修及び講習を徹底し、安全運転への意識を高めていきます。また、計画的な車両整備や故障対応等を適切に行い、適正車両による無事故作業に努めます。</p> <p>区保有車両については、これまで同様、引き続きコスト及び年々減少傾向にあるごみ量等を考慮し、今後の清掃事業の方向性を勘案して、保有台数や管理方法など効率的な運用の検討を行っていきます。</p>

令和 3年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容		

令和 2年度 杉並区事務事業評価表 (1)

(00454)

事務事業名称	杉並清掃事務所の維持管理	款 06	項 01	目 04	事業 002	整理番号	460
現担当課名	杉並清掃事務所	係名	管理係	連絡先 電話番号	3392-7281	昨年度 整理番号	470
上位施策No・施策名	10 ごみの減量と資源化の推進			予算事業区分	既定事業		
事業開始	平成12年度						
令和元年度 担当課名	杉並清掃事務所			事業評価区分	施設維持管理		

令和元年度 事務事業の概要 (Plan)

対象	12,036.76㎡ (本所-784.70㎡、下井草分室-602.96㎡、旧杉並中継所-6,311.73㎡、方南支所1875.64㎡、高円寺車庫2461.73㎡)	根拠 法令 等 (1) (2)	杉並区公有財産管理規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) ○建物や設備等を適正に管理保全し、安全で機能的な執務環境を確保する。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	電気使用量 杉並清掃事務所、分室、車庫、方南支所、旧中継所の電気使用量合計 施設等修繕契約件数	
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) ○杉並清掃事務所、下井草分室、方南支所、高円寺車庫及び旧杉並中継所の庁舎等の維持管理と運営を行う。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	杉並清掃事務所、分室、車庫、方南支所、旧中継所に係る施設及び設備機器修繕契約件数	

指標、総事業費・コスト把握 (Plan・Do)

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度 計画	令和元年度 対計画比 (%)	令和元年度 予算執行率 (%)		
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績					
活動指標 (1)	1	kwh	653,684	748,200	713,706	710,000	678,272	695,800	95.5	96.9	
活動指標 (2)	2	件	56	50	44	50	52	50	104.0		
成果指標 (1)	3										
成果指標 (2)	4										
事業費	5	千円	120,206	183,603	176,505	116,563	112,975	123,922	特記事項		
(内) 投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	平成30年度に耐震補強工事等大規模修繕を単年度で行っているため、令和元年度の事業費は大幅に減少しています。		
(内) 委託費	7	千円	56,682	120,722	117,909	51,037	49,690	54,795			
職員数	8	人	8.60	8.20	3.65	4.24	6.07	5.74			
上記以外の職員	9	人	0.20	0.88	0.00	0.00	0.20	0.50			
人件費	10	千円	73,883	70,446	30,755	32,932	50,386	47,931			
上記以外の職員	11	千円	589	2,591	0	0	616	1,540			
総事業費 (5+10+11)	12	千円	194,678	256,640	207,260	149,495	163,977	173,393			
単位当たりコスト (12-6)÷1)	13	円	298	343	290	211	242	249			
財源	受益者負担分	14	千円	8,440	9,630	9,127	9,607	9,019	9,983		
	国からの補助金等	15	千円	0	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16	千円	0	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18	千円	8,440	9,630	9,127	9,607	9,019	9,983		
差引：一般財源 (12-18)	19	千円	186,238	247,010	198,133	139,888	154,958	163,410			
受益者負担比率 (14÷12)	20	%	4.3	3.8	4.4	6.4	5.5	5.8			

令和 2年度 杉並区事務事業評価表（2）

令和元年度 事業実施状況（D o）

整理番号 460

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	保守管理委託			
	光熱水費の支出			47,310
	維持管理経費の支出			5,529
	施設等整備			13,036
	その他（ ）			
事業実績	<p>本所、下井草分室、方南支所において老朽化が進んでおり、各種保守点検に加え計画的な整備・修繕が必要であるなか、限られた財源で適切な施設管理に努めました。</p> <p>また、高円寺車庫においては、各種機器等を安全かつ適切に管理するために計画的な点検・整備を行いました。</p>			

令和元年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情等）	
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	
評価と課題	<p>老朽化が進んでいる杉並清掃事務所、方南支所、旧杉並中継所の各施設において、優先度の高い項目から必要な修繕を行うなど、適切な維持管理を行いました。</p> <p>高円寺車庫を除く清掃事務所の各施設は、老朽化に伴う適切な維持管理が引き続き求められることから、コストの増加が見込まれるため、計画的な維持管理に努める必要があります。</p> <p>旧杉並中継所は杉並区立施設再編整備計画において、災害時の防災拠点としての活用が予定されていることから、今後の維持管理に当たっては、庁内関係部署と必要な調整を図っていく必要があります。</p>

令和 3年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I. 事業コストの方向性	現状維持
	II. 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容		